

◆2021年度中学入試算数 講評【桜蔭】

今年も例年と同様、大部分が思考力を問われる問題でした。同時に、例年通り長文の意味をくまなく読み取ることや、煩雑な計算や処理を早く正確にできることも求められる内容でした。

大問2の「場合の数」は、回転対称なものは同じ模様としつつも、折り返して対称になる物は別の模様として数えるのが非常に煩雑です。今年の中学入試における同分野を代表するような、最高難度の問題でした。

同校の問題は、男子校共学合わせでも最高レベルですが、女子校の中では特に群を抜いてタフな内容と言えるでしょう。

大問1 小問集合

(1)の計算問題から、通常の小問集合とは思えないような複雑難解さ。

大問2 場合の数

もれなく、ダブリなく数えることが、非常に煩雑な問題でした。

大問3 水槽 ダイアグラム

同校としては、例年に比べ素直な出題 計算の負荷も少ない

(小問集合と大問2がとても煩雑なこととのバランスをとったのだと思います)

大問4 速さ 周回運動

計算はやや煩雑ですが、例年の同校としては素直な出題。